港では能代の特産品を販売

客船「ぱしふぃっくびいなす」を太鼓の演奏で歓迎

○観光と能代港

5月5日、能代港4万トン岸壁に客船「ぱしふぃっくびいなす」が寄港しました。普段は立ち入り規制が行われている岸壁ですが、この日は一般開放され、歓迎セレモニーや物産販売が行われました。16年度は3回、客船の入港があったそうで、今年は6月7日にも客船が寄港するそうです。このような観光客船は白神山地が世界遺産に登録されてから、やや増加傾向にあるそうです。今回寄港した「ぱしふぃっくびいなす」でも、いくつかのバス旅行の中で、白神山地・十二湖方面コースの人気が高かったということです。能代市内を巡るコースもあり、ちょうど見ごろだった多宝院のしだれ桜や北限の茶畑などを見て回ったそうです。地元の言葉でのガイドは、「地域の空気が味わえる」と好評だということです。

船で旅行をする人には、旅慣れている人が多く、評価は厳しいといいます。船の旅は、大きな目的地のほかに、いくつもの港に寄港します。たくさんある港の中で能代港に寄ってもらうためには、目の肥えた人たちに満足してもらえるものを提供していかなければなりません。滞在時間によって変わる行動範囲に合わせて、能代だけでなく周辺地域でも魅力ある内容を提供し、より多くの人が訪れるようになってほしいです。

○能代港のこれから

船便はコンテナが主流であり、コンテナ貨物を扱うためには設備や定期航路の整備をすすめなければならないということです。定期航路の設定のためには、一定の荷物量が必要になってきます。また、船便は、片道なのか往復なのか、積載量が50％なのか100％なのか、条件によってコストが大きく異なり、必ずしも近くの港が使われているわけではないそうです。

能代港の利活用のために、市が掲げたのが「リサイクル港」です。国での指定は1次・2次ともに終了し、現在18港が指定を受けているということです。指定にはいくつもの条件があり、能代港は国の指定は受けていませんが、同様の機能を持つ港を目指すことはできます。ほかの港ではやっていないものや受け入れにくいものなど、今までにない方法での利活用を進めていこうと考えているそうです。リサイクル産業は循環型社会とのかかわりも大きく、新たな産業の創出や発展の中で、物流の拠点としての港の活性化が期待されます。

○取材を終えて

普段あまり行くことのない能代港に今回行ってみて、改めて規模の大きさに驚きました。

現在、能代港は能代火力発電所のエネルギー港湾としての役割がほとんどだということです。港は社会資本の一つであり、地域の産業が発展する中で活用され、発展していくものです。利活用の一つとしてのリサイクル産業には、市民の理解も必要だといいます。地元産業の努力、市民の協力、市のサポート、みんなの力で能代港の利活用を進め、能代だけでなく周辺地域全体の発展につながってほしいです。

市民リポーターによるふるさと紹介は、今回でいったん休止します。